



PRESS RELEASE

2025 年 5 月 30 日

【ブランド USA】 アメリカ建国 250 周年を来年に控え、 本年夏から 2026 年にかけて新規オープンする 観光施設・ホテル・イベント情報を一挙公開

アメリカ合衆国は来年、建国 250 周年という大きな節目を迎えます。それに伴いアメリカ各地で本年夏から 2026 年初頭にかけて、新たなランドマークの誕生や世界的イベントの開催が相次ぎます。都市型エンターテインメント、文化・歴史体験、サステナブルなホテルステイ、そして雄大な自然を満喫できるアウトドアアクティビティまで、多彩な旅のスタイルが一層広がる中、アメリカの公式観光促進情報サイト「GoUSA」では、日本の旅行者に向けて、開業間近の観光施設や注目イベントを厳選し、その情報を公開しました。

ファレル・ウィリアムスが出資「アトランティック・パーク」や全米最長ジップライン「メガジップ」まで、話題の新スポットが続々誕生

チェサピーク湾と大西洋が交わるリゾートタウン、バージニア州バージニアビーチでは、同地出身の世界的アーティスト、ファレル・ウィリアムスが資金提供を行った大規模複合開発「アトランティック・パーク」が、本年 7 月に誕生します。総事業費約 470 億円を投じた本プロジェクトは、音楽・スポーツ・カルチャーをシームレスに楽しめる次世代型施設として注目されており、大西洋沿いの都市型リゾートであるバージニアビーチに、全米で初めてとなる「ウェーブガーデン・コーヴ」技術を採用した本格的な人工サーフィン施設が設置されます。また、最大 5,000 人を収容可能な開閉式の多目的エンターテインメントスペース「ザ・ドーム」も併設され、年間を通じて音楽ライブや地域イベントなどが開催される予定です。アメリカ南部料理やクラフトビールを味わえる個性豊かなレストランやバー、ショッピング施設も揃い、バージニア州を代表する新たな観光拠点となります。

そして、バージニア州に隣接し、自然豊かな休暇地として知られるグレートスモーキー山脈の麓に位置するテネシー州ピジョンフォージには今月、アメリカ国内最長のジップライン施設が新たに誕生しました。グレートスモーキー山脈の大自然を活かした多彩なアウトドア体験が楽しめるアドベンチャーパーク「ワイルドサイド」に登場した目玉アトラクション「メガジップ」は、標



高約 750 メートルの地点からスタートし、最大時速 90 キロ近いスピードで滑走しながら、300 メートル以上の高低差を一気に駆け下ります。4 本の並列ラインが設置され、友人や家族と横並びで同時に滑走することも可能です。グレートスモーキー山脈の手つかずの自然の上空を爽快に飛ぶこの体験は、国内外の旅行者を魅了する新たなアトラクションとして注目を集めています。

テネシー州の西に位置するオクラホマ州サパルパは、歴史的なルート 66 沿いにあることから「ルート 66 の中心地」として知られています。イリノイ州シカゴとカリフォルニア州ロサンゼルスをつ結び、アメリカの中心部を横断するルート 66 は、1926 年 11 月 11 日に制定された全米初期の国道のひとつで、2026 年に 100 周年を迎えます。今後アメリカ各地で周年事業やイベントが開催される中、ルート 66 の面影が色濃く息づくサパルパにこのたび、アメリカの自動車文化を垣間見ることができる新スポットが誕生します。クラシックカーやヴィンテージカー、ルート 66 に関連する多彩な記念品を展示する「ハート・オブ・ルート 66・オート・ミュージアム」では、アメリカの自動車文化を象徴する名車、フォード・モデル T の歴史や仕組みを学びながら、実際に運転操作を体験できるプログラム「モデル T エクスペリエンス」が本年 6 月からスタートします。参加者は約 30 分の座学と運転指導を受け、体験後に「モデル T ドライバーズライセンス」を取得することができます。

ルート 66 沿線上に位置するアリゾナ州の北に広がるユタ州では、今夏、映画ファン必見の野外上映イベントが開催されます。同州では、映画やテレビのロケ地として使用された名所に案内サインを設置し、旅行者が作品の世界に没入しているかのような体験ができるよう工夫されています。こうした取り組みは「ユタ・フィルム・トレイル」として展開され、映画の舞台を巡る旅を通じて、ユタならではの雄大な景観と映像文化の魅力に触れられる観光プロモーションとして注目を集めています。そんなフィルムツーリズムに注力するソルトレイクシティ最大級の公園「リバティパーク」を舞台に、野外上映イベント「サマー・アウトドア・フィルム・シリーズ」が今夏開催されます。本年 7 月 11 日から 8 月 1 日までの毎週金曜日、緑溢れる公園で日没後に星空の下、映画鑑賞を楽しめます。アカデミー賞受賞作「Flow」やハーレムの伝説的な劇場を描いたドキュメンタリー「The Apollo」などの上映が予定されています。

アメリカの豊かな自然と文化遺産を融合した新たな観光スポットとして、ニューヨーク州レイクプラシッドが注目を集めています。1980 年の冬季オリンピック開催地として知られるこの地域では、かつての鉄道の線路跡を整備した全長約 55 キロメートルの「アディロンダック・レール・トレイル」が、新たなアウトドアアクティビティ拠点として段階的に整備されています。緩やかな傾斜が続くこのトレイルは、ウォーキングやサイクリング、ローラーブレードなどに最適で、四季折々の自然の中を快適に楽しむことができます。さらに、このトレイル沿いに位置するサラナック湖地域では、アウトドアと地域の魅力を体感できるイベントも予定されています。サラナック湖畔にある大学「ポール・スミス・カレッジ」では、本年 8 月 1 日から 3 日にかけて、サイクリングイベント「ウ



「ワークエンダー」が開催されます。広大なキャンパスを起点に、周囲の豊かな自然を眺めながらサイクリングを楽しめるほか、夕方には湖畔でのたき火やギター演奏、カヌー体験、森の遊歩道での散策など、多彩なアクティビティが用意されています。緑に囲まれた静かな環境の中で、学びの場ならではの穏やかな空気を感じながら、心身ともにリフレッシュできる時間を過ごすことができます。

サステナブルから個性派まで 多様なホテルが全米各地でオープン

アメリカでは本年、宿泊施設の新規開業やリニューアルオープンが相次ぎ、なかでも持続可能性への取り組みを重視したホテルが注目を集めています。そうした取り組みの代表例として挙げられるのが、建築物の環境性能を評価する「LEED 認証」です。これは、エネルギー効率や水資源の活用、建材の選定、室内環境などに関する厳しい基準をクリアした建物に与えられる、国際的に認められた環境性能評価の認証制度で、この認証を取得したホテル、「ザ・プリンティング・ハウス」が、テネシー州ナッシュビルに本年 6 月開業します。かつて印刷工場として使われていた建物を再開発したこのホテルは、ナッシュビルが誇るレタープレス(活版)印刷の伝統を取り入れ、音楽ポスター文化への敬意を込めた建築デザインが特徴です。11 階建ての建物全体がまるで印刷機のスタンプのような造形となっており、印刷工場としての歴史をデザインに落とし込んでいます。同ホテルには、屋外テラス、シグネチャーカフェ、フィットネスセンターを完備し、ライブ音楽やカクテルを楽しめる「レタープレス・ラウンジ&テラス」が併設されます。

サステナブルの観点で注目される新規ホテル「ポピュラス・シアトル」が今月22日、ワシントン州シアトルに開業しました。パイオニアスクエア地区に位置する 1907 年建造の歴史的なウェストランド・ビルディングを再活用し、全米で 2 軒目となる“カーボン・ポジティブ・ホテル”として営業を開始しました。ホテルの運営によって排出される二酸化炭素量を、再生可能エネルギーの活用やカーボンオフセットの取り組みによって相殺するだけでなく、それを上回る量の温室効果ガスを削減・吸収することで、環境にプラスの影響を与えることを目指した、次世代型の持続可能な宿泊施設です。同ホテルには、パイオニアスクエア地区初のルーフトップバーやシグネチャーレストランを併設し、地域コミュニティとの共生と環境負荷の低減を両立させた、新しい都市型ホテルとして大きな話題を呼んでいます。

歴史ある名門ホテルが大規模な改修を経て、新たな魅力を備えて再オープンする事例が、アメリカ各地で相次いでいます。その一つが約 6 年にわたる改装工事を経て、本年春に再オープンを果たしたマンハッタンの象徴的な高級ホテル「ウォールドルフ・アストリア・ニューヨーク」です。アールデコ様式の優雅な意匠はそのままに、客室、レジデンス、そして伝説的なパブリックスペースが全面的に改装され、最新の設備とテクノロジーが導入されたことで、より快適で機能的な空間へと生まれ変わりました。かつてマリリン・モンローやウィンストン・チャーチルも宿泊したこのホテルは、世界中のゲストを迎える“ニューヨークの社交の場”としての存在感を再び放ち、国内外の旅行者の憧れの滞在先となっています。



アメリカ最古の木造建築のひとつで、カリフォルニア州サンディエゴに位置する、1888 年創業の「ホテル・デル・コロナド」は、ビクトリア朝建築の国定歴史建造物にも指定されている名門ホテルです。2018 年から進められてきた大規模な改装プロジェクトの全面改装が本年 6 月に完了予定で、客室やスイート、イベントスペースが大幅に刷新されます。また同ホテルには、シェフ・松久信幸氏と俳優ロバート・デ・ニーロ氏によって創設された、世界的に知られる高級日本食レストラン「Nobu」ブランドの最新店舗「Nobu デル・コロナド」を館内に備えています。同レストランは太平洋を望む広大なダイニングスペースと全天候型のテラススペースを備え、東屋風のバーや専用の寿司バーが設けられています。「銀鱈の西京焼き」や「ハマチの刺身、ハラペーニョ添え」など Nobu のシグネチャーメニューに加え、世界的に高い評価を受ける寿司や、地元の食材を取り入れた料理を楽しむことができます。

個性で勝負する、独自のテーマを持ったユニークなホテルも各地で新規開業を予定しています。コロラド州デンバーのダウンタウンに位置する「ザ・カーティス・ホテル」は、懐かしさと新しさが融合したユニークな宿泊体験をテーマに、本年 7 月にリニューアルオープンします。1980～90 年代に人気を博した懐かしのゲームやおもちゃをテーマにした、個性豊かな 12 室のゲストルームが新たに登場します。なかでも「ビデオゲーム・ルーム」には、アーケード黄金期を象徴するドンキーコングのゲーム機が設置されており、まるでゲームセンターにいるかのようなノスタルジックな雰囲気を楽しめます。館内の随所には、映画やアニメ、ポップカルチャーから着想を得た装飾が施され、フロアごとに異なる斬新なデザインコンセプトが楽しめる、遊び心あふれる空間が広がっています。

カリフォルニア州パソ・ロブレスには、食とワインをテーマにした全 151 室のブティックホテル「ザ・アヴァ・ホテル」が本年 7 月、開業します。4 階建てのモダンな建物は、地域の豊かなワイン文化を反映したレストランを併設し、パソ・ロブレスの食とワインの魅力を五感で味わえる設計となっています。さらに、同エリア最大規模を誇るルーフトップスペースからは、美しいブドウ畑の風景を一望でき、開放的な空間でゆったりとした滞在を楽しむことができます。

エンターテインメントの街、ネバダ州ラスベガスのストリップ中心部に、2026 年初頭、「ザ・ヴァンダーパンプ・ホテル」が誕生します。このホテルは、現在のブティックホテル「ザ・クロムウェル」を全面改装し、リアリティ TV 番組「リアル・ハウスワイフズ・オブ・ビバリーヒルズ」で知られるリサ・ヴァンダーパンプ氏とシーザーズ・エンターテインメントが共同でプロデュースを手がけています。ホテルは 188 室の客室と 19 のスイートを備え、「魅惑的なエレガンスと快適さ」をテーマに、独自の内装が施される予定です。

豊かな自然を感じながら、アクティブなアウトドアと静寂なひとときを堪能できるラグジュアリーリゾートが、モンタナ州ビッグスカイに今秋誕生します。東京ドーム約 20 個分に相当する広大な



敷地に開業する「ワン&オンリー・ムーンライト・ベイスン・モンタナ・リゾート」は、ホテルからスキー場へそのままアクセスできるスキーイン／スキーアウトの環境に加え、山間に広がる湖のプライベートビーチや屋外プールなど、四季折々の自然を満喫できる多彩な施設が整備されています。計 73 室の客室とスイートに加え、19 棟の独立型キャビン、5 棟のロッジが用意されており、壮大な自然に包まれながら、ゆったりとした滞在を満喫できます。

風光明媚なサイクリングロードや散策トレイルが整備され、気軽にアウトドアを楽しめるアーカンソー州ベントンビルには今秋、新たな独立系ライフスタイルホテル「ザ・コンプトン」が開業します。ウォルマート創業の地として知られる歴史地区「ヒストリック・スクエア」に位置し、緑あふれるデイベ・ピール・パークや、新設された歩行者専用プロムナードに隣接しています。ホテルは全 142 室の客室を備え、自然光が差し込む吹き抜けのロビーや、地元の素材を取り入れた温もりあるインテリアを採用しています。豊かな自然と穏やかな暮らしが息づくこの街で、心地よい滞在をかなえる新たな拠点として、同ホテルに注目が集まっています。

ミシュランガイドが新たに南部地域を対象に追加 全米で話題のグルメスポットが登場

アメリカ南部のグルメシーンは今、大きな進化を遂げています。本年、ミシュランガイドの対象エリアに、アトランタを含むアラバマ州、ルイジアナ州、ミシシッピ州、ノースカロライナ州、サウスカロライナ州、テネシー州の地方都市や農村地域が新たに加わりました。これにより、アメリカ南部全体の多様で奥深い食文化が、世界的に注目されています。

ウィスコンシン州の州都マディソンには今秋、地元の食とクラフト文化を一堂に集めた新施設「マディソン・パブリック・マーケット」が誕生します。本年 11 月 1 日の開業を予定しており、州議事堂からほど近いイースト・ワシントン・ストリート沿いという好立地にオープンします。地元の小規模事業者が出店し、新鮮な食材や惣菜のほか、手工芸品なども販売される予定で、地域コミュニティの新たな交流拠点としても期待が高まっています。

オレゴン州ポートランドのダウントウンでは、“アメリカ料理の父”とも称される料理界の巨匠の名を冠した「ジェームズ・ビアード・パブリック・マーケット」が、2026 年 9 月のグランドオープンに向けて着実に歩みを進めています。本年初めには一部施設の営業が始まり、すでに地元の食通たちの注目を集めています。魚市場や精肉店、チーズショップに加え、レストラン、料理教室、料理書専門書店など、40 を超える多彩な店舗が集結する一大フードマーケットとなる予定で、食の都ポートランドにふさわしい新たなランドマークとして期待が寄せられています。

ルイジアナ州ニューオーリンズの名店「キュア (Cure)」は、Food & Wine 誌の「2025 年グローバル・テイストメーカー・アワード」で「全米で最も優れたバー」に選ばれ、さらに「North America's 50 Best Bars」にも 3 年連続でランクインしています。100 年以上前の消防署を改装した店内では、クラシックなカクテルから革新的な一杯まで幅広く提供しており、その洗練された空間とともに



に訪れる人々を魅了し続けています。本年6月14日には、「Cure」にて特別イベント「Cocktails of the World」が開催されます。同店のミクソロジストが世界5都市の受賞歴あるバーの代表的なカクテルを再現し、制作過程を実演するこのイベントでは、世界的なバー文化に触れながら、創造性と革新性を体感できるひとときを楽しめます。

全米で進化するウェルネス&リトリート体験

心と身体の回復をテーマにしたラグジュアリーな滞在型の旅は、全米各地で進化を続けています。ニューヨークでは、マンハッタン中心部に位置するホテル「トンプソン・セントラル・パーク」内に、全米で8店舗目となる「エクスヘイル(exhale™)」が本年3月にオープンしました。ニューヨーク市内では2拠点目となるこの施設では、上質なスパリトリートメントや活力を引き出すフットネスクラス、世界基準のアメニティを融合させた包括的なウェルビーイング体験を提供し、洗練された空間の中で心身のバランスを整える時間を過ごすことができます。

ニューメキシコ州では、地元発の高級ホテルグループ「ヘリテージ・ホテルズ&リゾーツ」の創業20周年を記念して、本年夏に新たなウェルネス体験プログラム「ザ・ヘリテージ・リトリート」が始まります。このプログラムでは、グループが展開する4つのスパ施設(エル・モンテ・サグラド、エルドラド・ホテル&スパ、イン&スパ・アット・ロレット、ホテル・チャコ)を巡りながら、儀式的なセッションを通じて心・体・魂を癒すことを促します。自然との深いつながりを感じながら、心身のバランスを穏やかに整える時間を過ごせるのが、このリトリートの大きな魅力となっています。

カリフォルニア州サンディエゴの歴史ある名門ホテル「ラ・バレンシア・ホテル」では、2026年に迎える開業100周年を前に今夏、新たなスパ施設のオープンが予定しています。ラ・ホーヤ湾の海洋保護区を見渡す高台に位置するこのスパでは、フェイシャル、マッサージ、ボディリトリートメントを行う6つの施術室を備え、サウンドヒーリングや瞑想、そしてレイキ(靈氣)といった、心身の回復力を高める多彩なプログラムを提供する予定です。穏やかな海を望む静かな空間の中で、自分自身と向き合う癒しのひとときを過ごすことができます。

アートファン注目のミュージアム&パフォーミングアーツ施設が続々オープン

アメリカでは本年、知的好奇心を刺激する芸術や文化に触れられる新スポットが各地で登場します。6月27日に再オープンを予定しているロサンゼルス「ゲティ・ヴィラ美術館」では、象徴的な海辺のロケーションで、古代ギリシャ・ローマ美術の名品を鑑賞できるようになります。美術館の建物自体も古代ローマの邸宅を再現したもので、作品と空間が一体となった没入感溢れる体験を楽しむことができます。

ロサンゼルスダウンタウンに位置する複合文化施設「The Grand LA」では、世界初となるAIとデジタルアートに特化した美術館「データランド」が今秋以降に開業予定です。著名建築家フランク・ゲーリー氏が設計を手がけ、メディアアーティストのレフィク・アナドル氏が設立に



携わっています。最先端のセンサー技術やビジュアライゼーション技術を活用した展示を通じて、人間の創造性と AI の融合というテーマを体感できる没入型アート体験を提供します。視覚・聴覚・嗅覚を刺激する多彩なコンテンツによって、来場者はアートとテクノロジーが切り拓く未来の可能性を五感で感じることができます。

カリフォルニア州サンディエゴに本年 9 月、「ジョーン&アーウィン・ジェイコブス・パフォーミングアーツセンター(The Joan)」が開業します。かつての海軍施設を再活用したこの新施設は、街を代表する劇団「シグネット・シアター」の新たな拠点となり、最先端の舞台設備を備えた現代的な劇場として生まれ変わります。同地域の文化芸術シーンを牽引する新たな拠点として、今後も多彩な舞台芸術プログラムが展開される予定です。

ニューヨークの名門美術館「フリック・コレクション」は、実業家ヘンリー・クレイ・フリックの 1914 年築のフリック・コレクション邸宅をもとに設立され、西洋絵画や装飾芸術の優品を多数所蔵しています。同施設は約 5 年にわたる大規模改修を経て、本年 4 月に再オープンを果たし、これまで非公開だった邸宅 2 階部分が一般公開され、かつて寝室として使われていた空間がギャラリーとして生まれ変わりました。さらにカフェや講堂も設けられ、来館者がより快適に館内で過ごせるよう工夫が施されています。

オハイオ州コロンバスでは、本年 9 月上旬のレイバーデー・ウィークエンドに、体験型アート施設「プロトタイプ:ジ・エクスペリメンタル・ミュージアム」がオープンします。約 2,800 平方メートルの広大な敷地内に、没入型のキネティックアートや VR 体験などが設置され、五感を刺激するユニークなミュージアム体験を楽しむことができます。アートとテクノロジーが融合したこの新施設は、地元のみならず国内外のアートファンの間でも注目を集めています。

オレゴン州ポートランドの「ポートランド美術館」では、本年 4 月に新棟「ロスコ・パビリオン」が開設されました。3 階建ての建物と新たな中央エントランスの一般公開により、美術館はこれまで以上に開かれた空間へと進化しています。最新の展示ギャラリーに加え、開放感あふれる屋外テラスや快適に過ごせる休憩スペースも整備されました。アメリカを代表する抽象画家マーク・ロスコの名を冠したこのパビリオンは、地域に根ざした芸術文化の新たな発信拠点として、その存在感を高めています。

フロリダ州マイアミビーチでは、街の豊かな歴史や文化、そしてアートシーンを紹介するスマートフォン用アプリ「EXP マイアミビーチ・ツアーズ・アプリ」が本年、大幅にアップグレードされました。インタラクティブなウォーキングツアーに加え、エンターテインメント情報へのスムーズなアクセスも可能となり、ユーザーはまるで自分専用のガイドとともに街を巡るような臨場感あふれる体験を楽しめるようになっていきます。観光とデジタルを融合したこの先進的なサービスは、マイアミビーチでの滞在をより便利で快適にする取り組みとして注目されています。



世界が注目する国際的なスポーツイベントがアメリカ各地で開催

本年から 2026 年にかけて、アメリカ各地では世界規模のスポーツイベントが次々と開催されます。サッカー、野球、ゴルフ、アメリカンフットボールといった多彩な競技が全米各地で開催され、国内外のスポーツファンからの注目が一層高まっています。

その先陣を切るのが、本年 6 月 14 日から 7 月 13 日まで約 1 か月にわたって開催される「FIFA クラブワールドカップ 2025」です。過去最大規模となる 32 チームが出場し、全米 12 都市を舞台に世界最高峰のクラブチームによる熱戦が繰り上げられます。開幕戦はフロリダ州マイアミのハードロック・スタジアム、決勝戦はニュージャージー州イストラザフォードのメットライフ・スタジアムで行われる予定で、日本のファンからは、日本勢として参戦する浦和レッズの活躍に熱い視線が注がれています。

続いて、本年 7 月 15 日には、ジョージア州コブ郡にあるトゥルイスト・パークで「MLB オールスターゲーム」が開催されます。大谷翔平選手や千賀滉大投手をはじめ、日本人メジャーリーガーの選出が期待されており、日本の野球ファンにとっても見逃せない一大イベントです。会場周辺に広がる複合施設「バッテリー・アトランタ」には、多彩なレストランやショップ、ライブ音楽イベントなどが集まり、観戦前後のひとときを彩ります。試合の熱気と街歩きの楽しさが融合した、アメリカならではのスタジアム体験を味わうことができます。

さらに、野球ファンのみならず、世界中から注目を集めているのが、2026 年 3 月 5 日から 17 日にかけてアメリカ各地で開催される「ワールド・ベースボール・クラシック (WBC)」です。試合はテキサス州ヒューストン、フロリダ州マイアミ、そしてプエルトリコのサンフアンで行われる予定で、日本代表「侍ジャパン」による連覇への挑戦にも、早くも熱い期待が寄せられています。

ゴルフ界では、本年 9 月 25 日から 28 日まで、米国と欧州のトップゴルファー計 24 名が競い合う名門対抗戦「ライダーカップ 2025」が、ニューヨーク州ファームिंगデールにあるベスパージ・ブラックコースで開催されます。全米オープンや PGA 選手権の舞台となってきたこの名門コースは、松山英樹選手がかつてプレーしたことでも知られています。ファームINGデール周辺には、家族連れに人気の遊園地「アドベンチャーランド」や、航空史にまつわる貴重な展示が楽しめる「アメリカン・エアパワー・ミュージアム」、そして歴史あるメインストリートには、地元のレストランやカフェ、ショップが立ち並び、観戦の合間に街歩きを楽しむこともできます。

そして 2026 年には、アメリカ最大のスポーツイベントである「スーパーボウル 60」が開催されます。記念すべき第 60 回は、2 月 8 日にカリフォルニア州サンタクララのリーバイス・スタジアムを舞台に実施される予定で、アメリカンフットボールの頂点を決める一戦となります。例年話題を呼ぶハーフタイムショーの出演アーティスト発表にも世界的な関心が寄せられており、試合直



前には「スーパーボウル・ウィーク」として、サンタクララおよびサンフランシスコ・ベイエリアで関連イベントが多数開催される見込みです。

さらに来年は、世界的な注目を集める「FIFA ワールドカップ 2026」も、アメリカを舞台に開催されます。アトランタ、ボストン、ダラス、ヒューストン、カンザスシティ、ロサンゼルス、マイアミ、ニューヨーク、ニュージャージー、フィラデルフィア、サンフランシスコ・ベイエリア、シアトルの 12 都市が試合会場に選ばれ、2026 年 6 月 11 日から 7 月 19 日までの期間、各地で白熱の試合が繰り広げられます。

新路線の開業や長距離クルーズも登場 広がるアメリカ国内の移動手段

アメリカ国内の移動手段も進化を遂げつつあり、鉄道や船、都市交通インフラの整備が各地で進んでいます。

西海岸では、ロサンゼルス国際空港にて本年 6 月、「LAX/メトロ・トランジットセンター」の開業が予定されています。アビエーション・ブルバードと 96 番通りの交差点に位置するこの新駅は、メトロの K ラインおよび C ラインと接続され、今後は空港自動シャトルトレイン (People Mover) との連携も予定されています。これにより空港へのアクセスが格段に向上し、日本からの旅行者にとっても、現地での移動がより快適かつスムーズになります。

アメリカ南部の鉄道網にも新たな動きが見られます。今夏から運行を開始するアムトラックの新路線「マルディグラ・サービス」は、ルイジアナ州ニューオーリンズとアラバマ州モービルを結び、ミシシッピ州沿岸のベイ・セント・ルイス、ガルフポート、ビロキシ、パスカゲーラなどにも停車します。また、ニューオーリンズ～メンフィス～シカゴ間を走る既存の長距離列車との同日接続も可能となるため、より柔軟で快適な鉄道旅が実現します。観光を楽しみながら、環境にもやさしい移動手段として注目されています。

ラグジュアリーな長距離移動を希望する旅行者には、アメリカン・クルーズ・ラインズ (ACL) が 2026 年から展開する 50 日超の長期クルーズも注目です。建国 250 周年を記念し、東海岸から西海岸まで全州をめぐる「ザ・グレート・ユナイテッド・ステイツ」、桜咲くワシントン D.C. やミシシッピ川流域の文化を巡る「スプリング・アクロス・アメリカ」、ニューイングランドや五大湖沿いの紅葉を堪能する「グレート・アメリカン・フォール・フォリッジ」など、いずれもアメリカ各地の風景や歴史、文化を深く味わえる旅程となっています。

加えて、本年 8 月 31 日には、ホーランド・アメリカ・ラインによる 28 日間の長期クルーズ「28 デイ・グレイシャーズ & ボルケーノズ: アラスカ・トゥ・ハワイ」がシアトルを出港します。アラスカの氷河地帯と秘境の港町を巡った後、太平洋を南下しながらハワイの火山やビーチを訪れるこの航路では、北の冷涼な世界から南の常夏の島々へと続く、ダイナミックな自然の変化を体験



することができます。

全米各地の歴史的スポットで、アニバーサリーイヤーを彩る特別プログラム開催

本年のアメリカでは、各地の観光名所や文化施設が節目の年を迎え、地域の歴史や個性を讃える多彩な記念プログラムが展開されています。伝統を再発見できる特別イベントや、アニバーサリーイヤーならではの体験型企画が各地で開催されます。

カリフォルニア州セントラルコーストのサンルイスオビスポ郡(通称 SLO CAL)にある、1925 年 12 月 12 日に開業した世界初の「モーテル」である「マイルストーン・モーテル(Motel Inn)」が誕生から 100 周年を迎えます。この施設は、建築家アーサー・S・ハイネマンによって設計され、自動車旅行者向けに設計された宿泊施設の先駆けとして知られています。マイルストーン・モーテルは 1991 年に営業を終了しましたが、ロードトリップを楽しむ自動車旅行者に手頃な宿を提供する「モーテル」というスタイルを確立し、現在も幹線道路沿いでは多くのモーテルが営業を続けています。近年では、レトロな趣を活かしながら内装や設備を現代的に整えたモーテルも増え、スタイリッシュで快適な宿の選択肢として注目を集めています。その一例が、カリフォルニア州サンルイスオビスポ郡の小さな海辺の町・カニコスにある「パシフィック・モーテル」です。美しいビーチやサーフィンスポットに近く、人気のロードトリップルートであるハイウェイ 1 号線沿いに位置するこのモーテルは、1920 年代に建てられたバンガローをリノベーションしたもので、白を基調とした明るい客室や洗練されたインテリアが魅力です。2022 年のリニューアルオープン以降、レトロな雰囲気を楽しみながら快適に過ごせる宿として多くの旅行者に親しまれています。また、敷地内にはクラシックカーの展示やヴィンテージ調の装飾が施されており、当時の雰囲気を満喫できます。

同州サンタバーバラの人気エリア「ファンクゾーン」に佇む「ホテル・カリフォルニアン」も、本年 6 月に創業 100 周年を迎えます。1925 年に開業し、その後数々の歴史を刻んできたこのホテルは、アールデコとモロッコ風の建築が融合した唯一無二の美しさで知られ、現在も洗練されたブティックホテルとして高い人気を誇ります。100 周年を記念した宿泊パッケージが用意され、到着時のウェルカムアメニティに始まり、館内でのディナーやワインテイスティング、60 分間のカスタムスパトリートメントなど、多彩な特典が組み込まれています。近隣の名門ワイナリーで楽しむ VIP テイスティングも含まれ、滞在の締めくくりには記念のオリジナルギフトが贈られます。

オレゴン州アシュランドの中心部に佇む「アシュランド・スプリングス・ホテル」も、本年で創業 100 周年を迎えます。1925 年の鉄道黄金時代に「リシア・スプリングス・ホテル」として開業したこのホテルは、当時ポートランドとサンフランシスコの間で最も高い建物として知られ、旅人たちにとって憧れの滞在先でした。スペイン・ムーア様式を取り入れた優美な外観と、天然鉱泉にちなんだ歴史ある名にふさわしいホスピタリティは、今なお健在です。今夏、同ホテルでは、「オレゴン・シェイクスピア・フェスティバル」の観劇チケット割引や宿泊料金の優待が含まれる



期間限定パッケージを提供中で、文化と滞在を組み合わせた特別な体験が楽しめます。

ケンタッキーダービーなど、競走馬の生産地としても知られる「世界の馬の都」ケンタッキー州レキシントンには、1775年に設立され、2025年に創設250周年という大きな節目を迎えます。これを記念して、年間を通じて多彩な市民参加型の祝祭イベントが予定されており、街の過去・現在・未来に光を当てるさまざまなプログラムが開催されます。ライブ音楽やフード、アートをテーマにしたフェスティバル、さらに著名人による講演などが予定されています。中でも注目されているのが、アフリカ系アメリカ人の食文化と歴史に焦点を当てた「ソウルフースト・ウィーク」です。6月19日から22日までの4日間、市内各地でフードイベントやトークセッションが行われ、さまざまな文化を味わいながら交流できる機会となります。さらに、レキシントンの多様性を象徴する「レキシントン・プライド・フェスティバル」も、6月28日に開催される予定です。ダウントウンを舞台に、パレードやライブパフォーマンス、地域団体によるブースが並び、街全体が祝祭ムードに包まれます。

オハイオ州クリーブランド近郊に位置する「カイヤホガバレー国立公園」は、設立から本年50周年を迎えました。これを記念して「CVNP 50」イニシアティブが立ち上がり、昨年9月から記念行事が開催されています。著名人による講演シリーズをはじめ、夏の野外コンサート、地域の魅力を伝える文化プログラム、パークレンジャーとともに歩くガイドツアーなど、五感で自然と触れ合うことができる参加型の体験アクティビティが充実しています。

カリフォルニア州北部に位置する「ラバベッツ国立公園」も、本年で設立100周年を迎えます。火山活動によって生まれたこの公園には、地下に広がる溶岩洞（ラバチューブ）の迷路のような景観が広がっており、地質学的にも極めて貴重な存在として知られています。暗闇の中を探検するような感覚を味わえる洞窟や、火山の大地が織りなすダイナミックな風景は、アメリカ西部の大自然の迫力と神秘を体感させてくれます。

2026年に向けて記念イベントや新施設が各地で開業

アメリカでは、2026年の建国250周年という大きな節目に向けて、歴史的記念イベントや新施設の開業など、全米各地でさまざまな取り組みが進んでいます。

全米50州を舞台に展開される公式事業「アメリカ250」では、連邦政府主導で、全米50州を舞台に、歴史や文化、未来への歩みに焦点を当てた多彩な記念イベントが開催されます。特別展や参加型の文化プログラムなどを通じて、アメリカの原点に触れる貴重な機会となります。2026年7月4日にはニューヨーク市では、世界各国から集まる30隻以上の大型帆船による壮大なパレード「セイルフォース250」が開催され、約600万人の観客が訪れると予想されています。アメリカ建国の地として知られるフィラデルフィアでは、毎年恒例の独立記念日イベント「ワワ・ウェルカム・アメリカ」が、2026年に建国250周年を記念した特別バージョンとして開催



されます。市内各所で繰り広げられる音楽ライブや壮大な花火、アメリカ建国の歴史にちなんだ特別展示に加え、家族連れでも楽しめる体験型プログラムやグルメフェスティバルなど、より一層充実した内容が予定されています。

そして、未来へと続く都市づくりにも注目が集まっています。カリフォルニア州オレンジ郡では、アナハイムのホンダセンター周辺に新たな開発エリア「OCVibe」が誕生予定です。2026 年から段階的にオープンが予定されているこのエリアは、総面積約 40 万平方メートルに及ぶ大規模複合施設で、音楽ホールやホテル、商業施設、公園、イベント広場などが整備される予定です。買い物・食・音楽・スポーツが一体となった次世代型の都市空間として、国内外の旅行者からも注目を集める新たなランドマークとして期待されています。

また、歴史と学びの場として注目を集めているのが、2026 年 7 月 4 日にノースダコタ州メドラに開館予定の「セオドア・ルーズベルト大統領図書館」です。第 26 代アメリカ大統領の功績や理念を紹介するほか、自然との共生やイノベーションをテーマにした展示や体験型プログラムが展開される予定で、知的好奇心を刺激する新たな観光スポットとして期待されています。

さらに、地域に根差した食の魅力を再発見できる拠点も登場します。オハイオ州コロンバスでは、地元の味を支えてきたマーケット「ノース・マーケット」が 2026 年に創設 150 周年を迎え、現在大規模な拡張プロジェクトが進行中です。新たに加わる 32 階建ての高層ビル「マーチャント・ビルディング」には、206 室の高級ブティックホテルや 1,600 平方メートル超のマーケットが誕生する予定です。

そして、地域に根差した祝祭の伝統行事も、2026 年に大きな節目を迎えます。ミシガン州トラバースシティでは、全米でも屈指の人気を誇る「ナショナル・チェリーフェスティバル」が 100 周年を迎え、例年以上に盛大な開催が予定されています。航空ショーやファーマーズマーケット、スポーツ大会、ライブパフォーマンスに加え、名物のチェリーパイ早食い競争など、あらゆる世代が楽しめる多彩なプログラムが 8 日間にわたって開催されます。

このようにアメリカでは、今夏以降、周年記念事業や国際的イベント、新施設の開業を通じて、各地で多彩な観光コンテンツが次々と登場しています。建国 250 周年を迎える 2026 年に向けて、記念プログラムや観光資源の整備が全米各地で進められており、アメリカならではの魅力がさらに広がりを見せています。詳細は随時、ブランド USA の[公式ウェブサイト](#)にて公開予定です。

「アメリカには常に、新たな発見と体験が皆様をお待ちしています。歴史的な節目を迎えるこの時期、次世代型の観光施設の誕生や国際的なイベントの開催など、2025 年以降のアメリカはこれまで以上に刺激に満ちた旅先となるでしょう。世界中の旅行者の皆様に、アメリカの“いま”



を体験していただけることを、心より楽しみにしております。」(ブランド USA のプレジデント兼最高経営責任者、フレッド・ディクソンのコメント)

■ ブランド USA について

アメリカ合衆国の公式観光促進団体であるブランド USA は、アメリカを優れた旅行デスティネーションとして訴求し、国外から旅行者に対しアメリカの観光施策を伝達することをその目的として、旅行促進法に基づき、アメリカ初の半官半民の事業体として設立されました。当団体は、海外からアメリカを訪れる旅行者の増加によってアメリカ経済を活性化し、世界におけるアメリカのイメージを向上させることを目的としています。2010 年に Corporation for Travel Promotion (米国旅行促進協会) として設立されたこの官民組織は、2011 年 5 月に活動を開始し、ブランド USA として事業を展開しています。オックスフォード・エコノミクス社の調査によると、ブランド USA は過去 11 年間のマーケティング施策により、海外からの訪米観光客が 870 万人増え、約 288 億ドル(約 4 兆 3200 億円 1 ドル=150 円換算レートにて計算)の消費額の増加、毎年 3 万 6,800 件を超える雇用の創出、83 億ドル(約 1 兆 2,450 億円)の連邦税、州税、地方税収入の増加を達成しており、その総経済効果は約 630 億ドル(約 9 兆 4,500 億円)に上り、投資 1 ドル(150 円)あたり 20 ドル(約 3,000 円)の経済的リターンを生み出しています。

ブランド USA に関する業界向けの詳細情報やパートナーに関する情報については、TheBrandUSA.com、または弊社の [Facebook](#)、[LinkedIn](#)、[X \(旧 Twitter\)](#) をご覧ください。アメリカ旅行の無限の多様性と本物の豊かな文化に関する情報は、ウェブサイト GoUSA.jp、または [Facebook \(Visit The USA\)](#)、[TikTok](#)、[Instagram](#) をご覧ください。[GoUSATV](#) では旅行動画を配信しています。

当リリースに関するお問い合わせ先

ブランド USA 日本事務所 (広報担当: 早瀬、水口、野間)

TEL: 03-6261-5385 E-mail: BrandUSAJapan@aviareps.com